

ふれあいの里奥出雲公園の鳥類相（中間報告）

星野由美子*・市橋直規**・中森純也**

An Interim Report on the Birds in the Fureainosato-Okuizumo Park Belonging to The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe.

Yumiko Hoshino, Naoki Ichihashi and Junya Nakamori

キーワード：ふれあいの里奥出雲公園、鳥類相、夏鳥、繁殖期、絶滅危惧種、特定外来種

1. はじめに

島根県立三瓶自然館の附属施設である「ふれあいの里奥出雲公園」は、島根県中部に位置している。園内およびその周辺は中山間地特有の山と谷筋が入り組んだ地形となっており、広い落葉広葉樹林帯にスギ、ヒノキなどの植林地がパッチ状に広がり、さまざまな鳥類の繁殖条件を満たしている地域である。

同公園では、5月中旬から6月初旬にかけては、国内希少野生動植物種に指定されているヤイロチョウ *Pitta brachyura* や観察例の少ないセグロカッコウ *Cuculus micropterus* などが観察されることがあり、以前からこれらの鳥類が繁殖しているのではないかと予想されているところである。

そこで、筆者らは公園に生息する鳥類全般の調査を行い、鳥類相を把握するとともに、当地で繁殖してい

る可能性がある鳥類についても生息状況を確認することを目的とした。また、近年、生息数の減少が懸念されているアカショウビン *Halcyon coromanda* などの夏鳥の繁殖にも注目して調査を実施した。

本報告では、2008年より2カ年にわたり確認された鳥類について、その途中経過を報告するものである。

2. 調査地の概要

ふれあいの里奥出雲公園（以下、公園とする）は、島根県中部の雲南市掛合町波多に位置し（図1）、面積約180haの森林を中心とし、標高350m～615mまでの起伏ある公園である。公園の入り口は南側にあり、標高約430m付近に駐車場、管理用施設、遊歩道やケビン、ドッグランなどの人と自然とのふれあい施設がまとまっている（図2～5）。また、約80m²の貯水池には、木道なども設置されている。さらに、入り口から2.5kmほど北に入ったところにはキャンプ場があり、キャンプサイトやファイヤーサークルなどがある。これらの、人と自然のふれあいを目的としたエリアは、定期的に草刈りが行われ、人為的な管理が行き届いている。しかし、それらの一般利用施設の面積は約10haで公園全体の5%程度であり、その他の部分は、コナラ *Quercus serrata* を中心とした落葉広葉樹林にアカマツ *Pinus densiflora* やスギ *Oryptomeria japonica* の針葉樹が一部混在する混交林となっている。園内をほぼ南北に縦断する形で流れる谷筋には、水量が豊富な渓谷が形成され、下流で神戸川へと合流する。

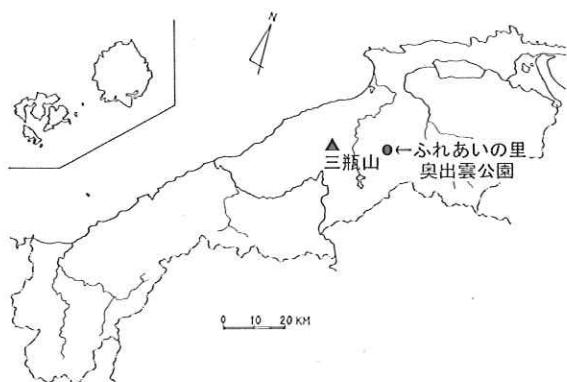


図1 ふれあいの里奥出雲公園位置図

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

** 日本鳥類標識協会, 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115 朝日山階鳥類研究所鳥類標識センター内

Japanese Bird Banding Association, Bird Migration Research Center, 115 Konoyama, Abiko, Chiba Prefecture.



図2 公園一般利用施設



図3 山野草園



図4 ドッグランと草地



図5 一般利用施設の奥に広がる混交林

公園に最も近い赤名の観測地の気象データによると、調査を実施した2008年と2009年の年平均気温は、2008年で11.6℃、2009年で11.4℃。月別の平均気温では最も高いのが2008年8月で34.1℃、最も低いのが2009年1月で-9.1℃であった。年間降水量は2008年で1,900mm、2009年で2,040mmであった。気象観測地と公園は、行政区域は異なるものの、標高がほぼ同じで気候も類似していることから参考とした。冬季には例年1m近い積雪があるため、1~3月は休園としている。

公園内は、特に自然公園法や鳥獣保護区などの法的な規制対象とはなっておらず、冬季にはイノシシ猟なども行われている。

3. 方 法

調査は、おもに基盤調査と標識調査、重点調査の3種類で実施し、補足的に文献調査も行った。

調査時期は、積雪のために入場が困難となる1~3月をはずした4~12月の間に行った。基盤調査は、ラインセンサス法を行った。1ヶ月に1~2回の頻度で決められたルートを歩きながら(図6)、双眼鏡を用いて目視と鳴き声で種類の確認を行った。また、調

査日以外の出現でも、希少種や注目すべき鳥類が確認された場合には、別にデータに付加した。

標識調査は調査期間中に2~3回/年、それぞれ連続した2~4日間行い、公園内の鳥の通過ルートとなりそうな場所2~3カ所でカスミ網(高さ2.5m、長さ12m×10枚程度)を用いて実施した。また、本調査においては鳥類の捕獲や取り扱いに高度な技術をもつ鳥類標識調査員を中心とした特別チームを編成した。

重点調査は、標識調査の際に併せて実施し、調査時間内(おもに日の出1時間前から日没後1時間程度)において目視や鳴き声で確認された種のすべてを記録した。

文献調査は、おもに日本野鳥の会島根県支部会報の「フィールドノート」および「探鳥会報告」を中心に行った(日本野鳥の会島根県支部、1989~2009)。

なお、種の同定は「日本の野鳥」(叶内、1998)および「日本の鳥550」(桐原、2000)、「日本の鳥類とその生態1、2」(山階、1985)を用いた。また、渡り区分は「しまねの鳥」(日本野鳥の会島根県支部、1997)を用いた。環境省RDB区分は環境省レッドリスト(環境省、2006)に、島根県RDB区分は、しまねレッドデータブック(島根県、2004)を用いた。和名および学名は原則として、日本鳥類目録改訂第6版(日本鳥学会、2000)に従った。

ふれあいの里奥出雲公園園内図



図6 ふれあいの里公園図および調査コース

4. 結果および今後の展望

基礎調査および標識調査、重点調査は、2年間で31日の調査を行った。

すべての調査で確認された鳥類は34科83種であった（表1）。確認種リストには、環境省および島根県のレッドリスト区分、島根県における渡り区分を記載した。また、それぞれの種が確認された月別リストを表2に示した。

基礎調査においては、2年間で16日の調査を行い、25科59種を確認した。

標識調査は、2年間で15日の調査を行い、27種156

羽を捕獲した。そのうち、2008年の新放鳥数は15種51羽、再捕獲は1種1羽（前日放鳥）、2009年の新放鳥数は27種97羽、再捕獲数は5種7羽（うち、前年放鳥は3種3羽）であった。前年放鳥種は、アカショウビン成鳥、キビタキ雄成鳥、ウグイス雄成鳥であった。

重点調査では、25科62種を確認した。

文献調査では、22科39種を確認した。文献には、1998年から2009年までの公園内で確認された記録が掲載されていた。

希少種の確認

今回の調査では、各種調査で環境省や島根県のレッ

データ種が多数確認された。特に、アカショウビンやヤイロチョウ、サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata* (図7) などの森林性鳥類の繁殖期における生息が確認された。アカショウビンにおいては、2年間で7羽が標識調査で確認されたことから、かなりの数が通過あるいは繁殖していることが考えられる。また、2007年には一般利用されている公園施設に作られたスズメバチの巣において、アカショウビンの巣が観察されたことがある(図8)。また、アカショウビンでは同一個体が2年連続で捕獲されていることから、定期的に渡来している個体がいると思われる。ヤイロチョウについては、標識調査で1羽が捕獲された(図9)ほか、来園者からの情報でペアと思われる2個体の観察情報がよせられている(2008、夏)。

猛禽類で特筆すべき記録としては、ツミ *Accipiter gularis* の繁殖行動が調査中に観察されたが、繁殖の確認には至らなかった。

また、サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* は、今回の調査では繁殖の確認はなかったが、平成11年6月に公園内で筆者が巣を確認している(野鳥の会島根県支部、1999)。また、ヤマセミも今回の調査では確認されなかつたが、筆者が公園内で観察している(図10)ほか、過去には公園のスタッフが幼鳥を保護したことがある(2000、夏)。

これらのことから、複数の希少種がかなりの数で繁殖している可能性が高く、引き続き調査を行うことによって、公園における希少鳥類の利用状況が判明すると思われる。

その他鳥類の確認

公園には、溪流、池、森林、草地などさまざまな環境があるため、サギやカモなどの水辺の鳥から草地を好む鳥類まで多様な種が確認された。なかでも旅鳥であるコルリ *Luscinica cyanus* やノビタキ *Saxicola torquata*、マミジロ *Turdus sibiricus sibiricus*、マミチャジナイ *Turdus obscurus* などが秋や早春に観察されていることから、移動の中継地として利用されていることが示唆された。特異な記録としては、2009年夏にヤツガシラが1羽観察された(図11)。これは、調査日ではなく三瓶自然館スタッフが同公園でイベント中に確認したもので、1回きりの記録である。

また、多くの留鳥が幼鳥をつれている姿や、若鳥が確認されることから多数の鳥類によって繁殖地として利用されている。

外来種の確認

2008年の重点調査中に、公園内の2カ所において、特定外来種に指定されているソウシチョウ *Leiothrix*

lutea (図12) のさえずりが確認された。ソウシチョウは、近年、繁殖地を広げつつあると言われ、同公園に近い島根県飯南町赤名で2008年10月に落鳥個体が確認された(星野、未発表)。他にも、2008~2009年には島根県松江市美保関で渡り途中と思われる9羽を捕獲・標識放鳥した(市橋、未発表)。また、鳥取県では、氷ノ山や大山で観察されている(日本野鳥の会鳥取県支部、2007, 2008)ほか、西中国山地では繁殖が確認されている(上野ら、2005)。これらのことから、本種は山陰地方へも繁殖地を広げている可能性が高い。ソウシチョウは1mを超えるササ類の繁茂する標高1,000m以上の落葉広葉樹林で繁殖し、冬季には標高の低い地域に移動し、主に竹林や笹藪に生息するとされているが、近年では標高の低い地域でも繁殖が確認されている(日本生態学会、2002)ことから、本種が好む環境が整っている同公園内でも、繁殖している可能性がある。本調査におけるソウシチョウの確認は2008年6月および7月にさえずりのみであるが、今後もソウシチョウの生息状況確認には注意が必要である。

謝 辞

調査にあたっては、鳥類標識調査員の木村裕一、古園由香、小林徹、中森沙希、鳴海末信、森茂晃の各氏にご助力いただいた。井手口和満、井手口賀子の両氏には2008年の標識調査期間中に重点調査をしていただいた。文献調査に際しては、森茂晃氏より情報を提供していただいた。葭矢崇司氏には、調査日以外の貴重な鳥類確認情報および写真データの提供をいただいた。ふれあいの里奥出雲公園のスタッフには物心両面でのご協力をいただいた。また、多くのみなさんから公園内の鳥類情報をご提供いただいた。この場をかりて心よりお礼申し上げる。

引 用 文 献

- 上野吉雄 (2005) 西中国山地におけるソウシチョウの巣初確認と生息状況、高原の自然史10・11: 135-141
- 環境省 (2006) レッドリスト鳥類、環境省、東京
- 桐原政志、山形則男、吉野俊幸 (2000) 日本の鳥550山野の鳥、文一総合出版、367pp、東京
- 茂田良光 (1991) BIRDER (8) 形態と識別⑦、文一総合出版、東京
- 島根県 (2004) しまねレッドデータブック、島根県、島根
- 日本生態学会編 (2002) 外来種ハンドブック、地人書館、390pp、東京

日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録改訂第6版, 日本鳥学会, 345pp, 東京
 日本野鳥の会島根県支部 (1997) しまねの鳥, 日本野鳥の会島根県支部, 184pp, 島根
 日本野鳥の会島根県支部 (1998) スペキュラム63, 日本野鳥の会島根県支部, 島根
 日本野鳥の会島根県支部 (1999) スペキュラム70, 日本野鳥の会島根県支部, 島根
 日本野鳥の会島根県支部 (1999) スペキュラム72, 日本野鳥の会島根県支部, 島根
 日本野鳥の会島根県支部 (2006) スペキュラム112-113, 日本野鳥の会島根県支部, 島根
 日本野鳥の会島根県支部 (2007) スペキュラム118-119, 日本野

鳥の会島根県支部, 島根
 日本野鳥の会島根県支部 (2008) スペキュラム123-126, 日本野鳥の会島根県支部, 島根
 日本野鳥の会島根県支部 (2009) スペキュラム130-131, 日本野鳥の会島根県支部, 島根
 日本野鳥の会鳥取県支部 (2007) 銀杏羽94, 日本野鳥の会鳥取県支部, 鳥取
 日本野鳥の会鳥取県支部 (2008) 銀杏羽95, 日本野鳥の会鳥取県支部, 鳥取
 山階芳廣 (1985) 日本の鳥類とその生態1, 冬至書房新社, 東京
 山階芳廣 (1985) 日本の鳥類とその生態2, 冬至書房新社, 東京



図7 サンコウチョウ 雄
 (撮影: ふれあいの里奥出雲公園: 中森)
 すべての調査で確認、繁殖の可能性が高い島根県レッドデータブック記載種。



図9 ヤイロチョウ (撮影: ふれあいの里奥出雲公園: 中森)
 例年さえずりは聞こえるものの鳴く期間が短いため、姿の確認ができたのは初記録。



図8 アカショウビン
 (撮影: ふれあいの里奥出雲公園: 萩矢)
 すべての調査で確認、標識調査でも多くの個体が確認されかなりの数の繁殖の可能性がある。



図10 ヤマセミ (撮影: ふれあいの里奥出雲公園: 星野)
 調査期間中は確認されていないが、過去には幼鳥の観察記録もある。



図11 ヤツガシラ (撮影: ふれあいの里奥出雲公園: 萩矢)
 4月頃に島根半島ではよく観察されるが、ふれあいの里奥出雲公園での観察は初記録。



図12 ソウシチョウ (撮影: 松江市美保関町: 市橋)
 ふれあいの里奥出雲公園では、さえずりのみの確認。今後の動向に注意が必要である。

表1 ふれあいの里奥出雲公園で確認された鳥類

目名	科名	和名	学名	国RDB	県RDB	区分	基礎調査等	重点調査	標識調査	文献調査	その他
コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ アオサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i> <i>Ardea cinerea</i>			留	●				
カモ目	カモ科	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	情報不足	準絶滅危惧	冬(一部留)	●	●			
タカ目	タカ科	ミサゴ ハチクマ トビ オオタカ ツミ サシバ クマタカ	<i>Pandion haliaetus</i> <i>Pernis apivorus</i> <i>Milvus migrans</i> <i>Accipiter gentilis</i> <i>Accipiter gularis</i> <i>Butastur indicus</i> <i>Spizactus nipalensis</i>	準絶滅危惧 準絶滅危惧Ⅱ類 準絶滅危惧Ⅰ類 留	準絶滅危惧Ⅱ類 準絶滅危惧Ⅰ類 留	冬(一部留) 夏 留	●	●			●
キジ目	キジ科	ヤマドリ	<i>Syrmaticus soemmerringii</i>			留	●				
チドリ目	シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>					●			
ハト目	ハト科	キジバト アオバト	<i>Streptopelia orientalis</i> <i>Sphenurus sieboldii</i>			留 旅	●	●	●	●	
カッコウ目	カッコウ科	セグロカッコウ カッコウ ツツドリ ホトトギス	<i>Cuculus micropterus</i> <i>Cuculus canorus</i> <i>Cuculus saturatus</i> <i>Cuculus poliocephalus</i>			旅 夏 夏 夏	●	●	●	●	
フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク アオバズク フクロウ	<i>Otus lempiji</i> <i>Ninox scutulata</i> <i>Strix uralensis</i>			留 夏 留	●				
アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ アマツバメ	<i>Apus affinis</i> <i>Apus pacificus</i>			旅	●	●			
ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	<i>Ceryle lugubris</i>		準絶滅危惧	留					●4月他:繁殖
		アカショウビン カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i> <i>Alcedo atthis</i>		準絶滅危惧Ⅱ類 留	夏 旅	●	●	●		
キツツキ目	キツツキ科	ヤツガシラ アオガラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ	<i>Ubuja ebops</i> <i>Picus awokera</i> <i>Dendrocopos major</i> <i>Dendrocopos leucotos</i> <i>Dendrocopos kizuki</i>			旅					●7月
スズメ目	ヤイロチヨウ科	ヤイロチヨウ	<i>Pitta brachyura</i>	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	夏	●	●	●	●	
	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>			留	●				
	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>			夏	●	●			
	セキレイ科	イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ピンズイ	<i>Delichon urbica</i> <i>Motacilla cinerea</i> <i>Motacilla grandis</i> <i>Anthus hodgsoni</i>			夏 留 留	●	●	●	●	
	サンショウウクイ科	サンショウウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	夏	●	●	●	●	繁殖
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>			留	●	●	●	●	
	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>			留	●				
	カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasi</i>			留	●				
	ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>			留	●				
	ツグミ科	コルリ ルリビタキ ジョウビタキ ノビタキ	<i>Luscinica cyanne</i> <i>Tarsiger cyanurus</i> <i>Phoenicurus aurorae</i> <i>Saxicola torquata</i>		情報不足	旅(一部夏)	●				
		トラツグミ マミジロ クロツグミ シロハラ マミチャジナイ ツグミ	<i>Zoothera dauma</i> <i>Turdus sibiricus</i> <i>Turdus cardis</i> <i>Turdus pallidus</i> <i>Turdus obscurus</i> <i>Turdus naumanni</i>			留 旅 冬 冬 旅 冬	●	●	●	●	
	ウグイス科	ヤブサメ ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ キクイタダキ	<i>Urosphena squameiceps</i> <i>Cettia diphone</i> <i>Acrocephalus arundinaceus</i> <i>Phylloscopus coronatus</i> <i>Regulus regulus</i>			夏 留 夏 夏 冬	●	●	●	●	
	ヒタキ科	キビタキ オオルリ コサメビタキ	<i>Ficedula narcissina</i> <i>Cyanoptila cyanomelana</i> <i>Muscicapa dauurica</i>			夏 夏 夏	●	●	●	●	
	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>		準絶滅危惧	夏	●	●	●	●	
	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>			留	●	●	●	●	
	シジュウカラ科	コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ	<i>Parus montanus</i> <i>Parus atter</i> <i>Parus varius</i> <i>Parus major</i>			留 留 留 留	●	●	●	●	
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>			留	●	●	●	●	
	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>			留	●	●	●	●	
	ホオジロ科	ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ クロジ	<i>Emberiza cioides</i> <i>Emberiza rustica</i> <i>Emberiza elegans</i> <i>Emberiza spodocephala</i> <i>Emberiza variabilis</i>			留 冬 冬 冬 冬	●	●	●	●	
	アトリ科	アトリ カワラヒワ ウソ イカル	<i>Fringilla montifringilla</i> <i>Carduelis sinica</i> <i>Pyrrhula pyrrhula</i> <i>Eophona personata</i>			冬 留 冬 留	●				
	ハタオリドリ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>			留	●				
	カラス科	カケス ハシボソガラス ハシブトガラス	<i>Garrulus glandarius</i> <i>Corvus corone</i> <i>Corvus macrorhynchos</i>			留 留 留	●	●	●	●	
【外来種】											
スズメ目	チメドリ科	ソウシチヨウ	<i>Leiothrix lutea</i>				●				声のみ

和名および学名は、日本鳥類目録改訂第6版に拠る。

表2 ふれあいの里奥出雲公園で確認された月別鳥類出現リスト

科名	和名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	その他の確認・備考
サギ科	ゴイサギ										
	アオサギ										
カモ科	オシドリ										
	ミサゴ										調査日以外に確認
	ハチクマ										
	トビ										
	オオタカ										
	ツミ										
キジ科	サシバ										
	クマタカ										
シギ科	ヤマドリ										
	ヤマシギ										
ハト科	キジバト										
	アオバト										
カッコウ科	セグロカッコウ										
	カッコウ										
	ツツドリ										
	ホトトギス										
フクロウ科	オオコノハズク										
	アオバズク										
	フクロウ										
アマツバメ科	ヒメアマツバメ										
	アマツバメ										
カワセミ科	ヤマセミ										調査日以外に確認（4月）：過去に繁殖例有り
	アカショウビン										
	カワセミ										
ヤツガシラ科	ヤツガシラ										調査日以外に確認（7月）
	アオゲラ										
キツツキ科	アカゲラ										
	オオアカゲラ										
	コゲラ										
ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ										
	ヒバリ										
ツバメ科	ツバメ										
	イワツバメ										
セキレイ科	キセキレイ										
	セグロセキレイ										
	ピンズイ										
サンショウクイ科	サンショウクイ										過去に繁殖確認
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ									
モズ科	モズ										
	カワガラス科	カワガラス									
ミソサザイ科	ミソサザイ										
	ツグミ科	コルリ									
ウグイス科	ルリビタキ										
	ジョウビタキ										
	ノビタキ										
	トラツグミ										
	マミジロ										
	クロツグミ										
ヒタキ科	シロハラ										
	マミチャジナイ										
カササギヒタキ科	ツグミ										
	ヤブサメ										
	ウグイス										
	オオヨシキリ										
	センダイムシタイ										
エナガ科	キクイタダキ										
	キビタキ										
	オオルリ										
シジュウカラ科	コガラ										
	ヒガラ										
ヤマガラ	ヤマガラ										
	シジュウカラ										
ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ										
	メジロ科	メジロ									
ホオジロ科	ホオジロ										
	カシラダカ										
	ミヤマホオジロ										
	アオジ										
	クロジ										
アトリ科	アトリ										
	カワラヒワ										
	ウツ										
	イカル										
ハタオリドリ科	スズメ										
	カラス科	カラス									
ハラス科	ハシボソガラス										
	ハシブトガラス										
【外来種】											
チメドリ科	ソウシチョウ										声のみ